

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着は終了しました

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは久栗坂沖で2.2個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で15.0個体/m³、川内沖で83.6個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません。

(4) マボヤ

ラーバは久栗坂沖で2.8個体/m³見られました(図4)。

(5) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は川内沖で5.5個体/m³見られました。

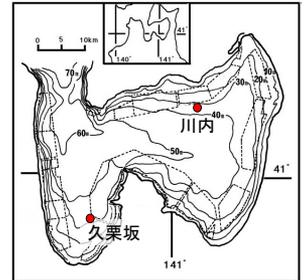


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	ムササキイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	R2.1.9	2.2	1.7	2.8	15.0	24.4	0.0	0.0
川内沖	R2.1.9	0.0	0.0	0.0	83.6	57.0	0.0	5.5

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

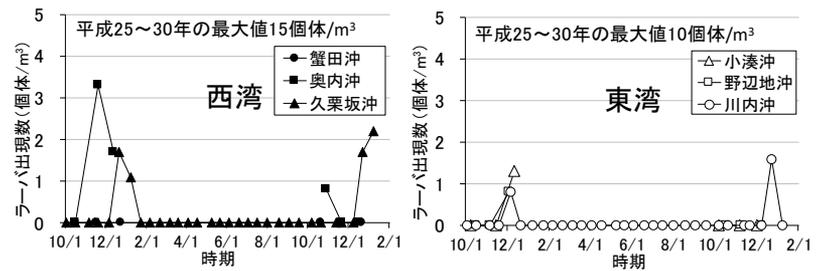


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成30年10月~令和2年1月)

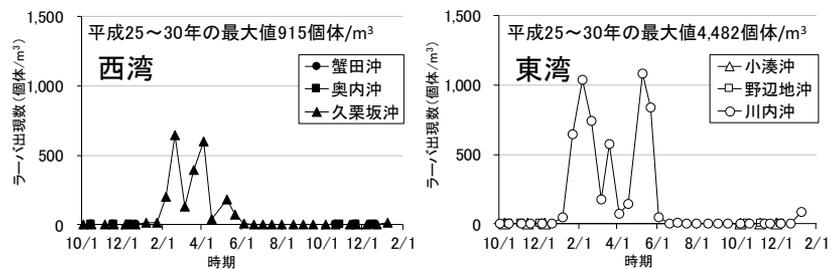


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成30年10月~令和2年1月)

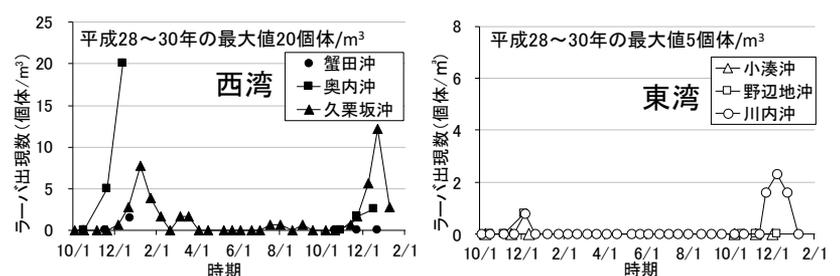


図4 マボヤ出現数の推移(平成30年10月~令和2年1月)

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が7~11℃台に低下しています。

ユウレイボヤの例年のラーバ出現ピークは過ぎていますが、ラーバがまだ出現していることから、今後も付着する可能性があります。なお、一部地区で早く稚貝分散した陸側施設に付着しているという漁業者情報があります。

キヌマトイガイのラーバの出現は例年より早いため、早い時期から籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われます。

マボヤのラーバがまだ見られていますが、9℃以下では付着できなくなるので、付着は終了したと思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

3 ユウレイボヤの付着予測

西湾(久栗坂)と東湾(小湊、野辺地、川内)における10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数、12月~翌年3月までの青森ブイ

(西湾)または東湾ブイ(東湾)の水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば付着量が少ないことが分かりました(図5)。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃、東湾ブイの平年値は5.6℃です。

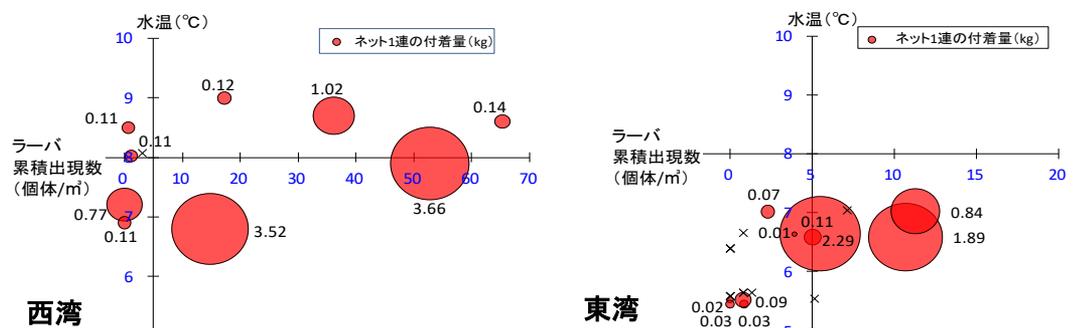


図5 平成16~30年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)

